

## 令和4年度 第2回下関市市民協働参画審議会 議事概要

- 1 開催日時 令和4年10月6日(木) 14時00分から
- 2 開催場所 下関市商工会議所3階会議室  
下関市南部町21-19
- 3 出席 16名(2名欠席)

### 4 審議会概要

- (1) 市民部長挨拶
- (2) 議事

令和3年度市民と行政・市民と市民のパートナーシップ年次報告  
について

事務局より令和3年度パートナーシップ年次報告(案)について昨  
年度答申及び事前に提出された委員のご意見を踏まえ説明。

(委員) 過疎地域対策に係るパブリックコメントは半数以上の意見  
が公表されていなかった。自分が提出した意見は過疎地域に  
おける学校に係るものであったが、公表されていない。その  
意見は過疎対策とは無関係というのか。自分が出した他の意  
見も過疎対策とは関係なく公表されないことが理解できな  
いものがある。半数以上の意見を理由も明確にせず公表しな  
いというのはパブリックコメントを実施した意味がないと  
考える。また、市のホームページをリニューアルしてから過  
去のパブリックコメントが掲載されなくなったことは市民  
の不信感に繋がる。

(事務局) パブリックコメント実施要綱に基づき、公表については各  
課で判断するものであることから、所管課へ意見をお伝えす  
る。

(委員) パブリックコメント実施要綱はどこで確認できるのか。

(事務局) ホームページに掲載している。

(委員) 公募委員を選定していない審議会に係る説明及び資料が分

かりづらい。一覧表に公募委員の有無を記載してはどうか。

- (委員) 委員の選任期間について、3期程度が好ましいと考える。考え方が固定されるので、新しい方を選任し、改革していくべきである。また、女性の比率について、目標を持っていつまでに達成するという施策を進めるべきである。
- (委員) 委員の構成については、いつまでに、どの程度まで(一定の目標)、それに向かってどのような取組をするのか、というところまで示してほしい。男女共同参画協議会であった意見だが、様々な会で充て職があり、例えば庁内組織で部長が充て職となっていると、部長は男性が多数であり女性比率が低くなるというものがあつた。そうではなく、部局の中で役を問わず女性を充てればよいのではないか。そういう議論を公にしていきたい。
- (委員) 委員の女性及び若年層の比率について具体的な数値目標があれば教えてほしい。
- (委員) 若年層である30代以下の方のどれだけが公募委員に就く意思があるのかということを含め議論が必要なのではないか。参加して意見を言うという意欲があつた上で、若い方を事務局で選定するということはあると思う。また、時間がない方は参加できないという現状もある。一定に目標を構えるのではなく、現状を踏まえた議論が必要だと考える。
- (委員) 現状難しいというのは確かである。若年層は経験が乏しく、それを踏まえて若年層が参加しやすい条件を作り、実現するための具体的な対策を設けるのが我々の世代の責任だと考える。
- (事務局) 委員の女性の登用率については人権・男女共同参画課において数値目標を持って取り組んでいるが、達成できていないのが現状である。充て職が多いのが理由の一つだと考え、団体からの登用がある場合、充て職でなく、推薦形式を採るようお願いしている。
- (委員) 市民協働参画審議会の理念は正しいが、どのように実現し

ていくか、道筋、課程の提示が乏しいように感じる。どうしたら一歩進めることができるかという論議にならない。まちづくり、ひとづくりの基礎は町内である。しかし、人間関係が希薄になっており動けなくなっている。提案として、町内をターゲットに企画、事業を行ってはどうか。私が住む町は世帯が多いが、近年様々な町内活動を行った。人間関係が密になり、どんどん活動しやすくなってきていると感じる。こうするとこうなるというものが見えてくると活気が生まれる。市民協働参画とは、このような現実に沿った取組で力を付けていくと考える。

また、公募委員が増えない現状について、何が問題なのか、どうすれば改善するのか、明確にしていかなければならない。

(委員) 市長へ手紙を出す方法が煩雑で、市の所管課にも連絡したが、分かっているが、そのような仕組になっていると説明を受けた。年次報告には市長へのはがき、Eメールなどの件数が記載されているが、煩雑で出しにくい仕組なのに件数だけ掲載されていても意味がない。せめて使いやすい制度にしたい等の記載があれば良いと考える。

クールビズランチ等について、関係ある市民が限られている。それを全市的な報告書で取り上げるのはいかがかと思う。

年次報告(案)には昨年度パブリックコメントを実施した施策4件の提出された意見件数がまとめられている。一番多いもので47件の意見があり、他は1桁、ゼロのものもある。この差は実施場所によるものだと考える。私は他の委員会で図書館でもパブリックコメントを実施するよう意見し、そうさせた。そのため、目に触れる機会が多く、47件の意見が提出されたと考える。その他の施策は意見の提出のさせ方が悪かったと認識して、年次報告には、より多くの意見が出るようパブリックコメントの在り方、場所について検討すると一言記載してはどうか。

パブリックコメントで意見を提出して、担当部署からその意見について、公表の対象となったか否か、対象とならなか

ったならその理由を説明する等、何の反応もないことはパブリックコメントを出しても何も変わらないという印象になりかねない。意見を出した方にはきちんと反応するべきである。

(委員) パブリックコメントの意見提出様式は何ページの何項について意見しろという様式になっている。市民がそのような様式で意見を書くことは困難だと考える。また皆に意見を求めるのであれば、字を書けない方、目の見えない方、耳の聞こえない方の意見はどうするのか、意見を聞くという姿勢が見えない。市の都合で、意見を聞いたという事実を残すに過ぎないのではないか。また、パブリックコメントの対象の内容が膨大であり、全部読める市民は少ないと思う。

(委員) 年次報告(案)では、しものせき市民活動センターに固執しているように感じるが、しものせき市民活動センターは下関市の端に位置しており、そこで活動する方は限られる。そこでの取組を中心に紹介されても遠方で利用者でない側にとっては何なのだろうという認識である。また、パブリックコメントに係る意見として、私はパソコンを使うが、パソコンを使わない方が多数いる。ホームページに掲載していると説明があっても、どれだけの市民の目に触れているか芳しくない状況だと考える。またリニューアルしたホームページは見にくく、以前掲載されていた過去のパブリックコメントのコンテンツが見れなくなっている状況については改善するべきである。

(委員) 審議会はやることが決められていて、その他の、例えばこの審議会の在り方を考えるとといった機会がない。その手当として3つ策はあると考える。

一つ目は審議会の拡充、回数を増やす。ただ、委員の方にもスケジュールがあるので、全委員に招集をかけるこの策は現実的ではない。

二つ目は運営規則で定められている部会という制度の拡

充。現在は助成事業審査部会という補助金の審査に係るものだけであるが、パブリックコメントや審議会の在り方等をテーマとした新しい専門的な部会を設置するというもの。これは審議会の中の機構なので、行政によるセッティングとなる。行政も人手不足で中々実現性に乏しく感じる。

三つ目は民間で有志で機会を設けるといふもの。その意見をどこかのタイミングで本会（審議会）へ提出する。そもそもが市民協働参画という分野であり、行政が動かなくても民間ベースの動きがあってもよいのではないかと考える。

（委員）パブリックコメントについて、法律に基づくもの等専門性が高いものは理解が困難であり、意見が出しにくいというのは事実である。なるべく理解してもらおうという視点で、行政サイドはそのための方策を講じることが必要だと考える。

（委員）今後フォントをユニバーサルデザインのもの（UDフォント）を使用した方がよい。

年次報告（案）でまちづくり協議会に係るものがスタンプラリーの紹介のみで、まちづくり協議会は市民参画に大きな役割を担っていると思っていたが、行政にとっても市民にとっても役に立っていないのか、という思いである。

（事務局）ご指摘のとおり、まちづくり協議会は市民協働参画に位置づけられ重要な役割を担っていると考えますが、現状条例等が別立てになっており、そのため当年次報告とは別に活動事例集を作成し、公表している。今後は市民協働参画における位置づけを明確にしていくとともに、市民活動促進基本計画とまちづくり推進計画を連動させていくことも検討している。

（委員）委員構成について具体的な数値目標があれば教えて欲しい。

（事務局）女性の登用率については人権・男女共同参画課が35%という数値目標をもって取り組んでいる。公募委員については、具体的な数値はないが、重要だという認識なので、良い方策があればご教授願う。若年層についても数値目標はないが、

先の審議にあったとおり、仕事の都合等で参加が難しいのは事実であり、目標設定の前にそこをどうクリアするかが課題と考える。例えばリアルタイムで参加できなくても意見を述べることができる仕組等。

### (3) 報告

市民活動支援補助金について

事務局より市民活動支援補助金（前期募集分）の審査結果について報告した。

以上で全ての予定を終了し、閉会した。